

1970年代以降のパフォーマンスおよび展覧会のビデオ記録のデジタル化・レコード化

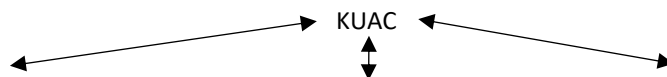
慶應義塾大学アート・センター（以下KUAC）

概要／課題

本事業は、戦後から現代にいたる日本のメディア芸術の諸活動を、「インターメディア」という枠組みにおいてとらえ直し、芸術史・映像史という縦軸と、同時代の様々な芸術諸活動という横軸との交差点に位置するビデオアート関連資料群に着目し、それらのデジタル化・レコード化を通じ、日本のメディア芸術史をよりよく精査可能にするための基盤構築を目指した。「インターメディア」問題とは、固有の芸術領域の閉塞状態を突破したり、そのさらなる展開を模索するために異なる芸術領域をいかに相互に関連づけ触発しあうのかについての方法論の探求と、新たなテクノロジーへの批判的な吟味だと言える。この探求の主戦場の一つとなったのはダンスや演劇や美術や音楽におけるパフォーマンス、そして展覧会である。本事業では慶應義塾大学アート・センターが所管している「中嶋興」（1941—）および「VIC」（Video Information Center, 1972—）関連資料の中からパフォーマンスと展覧会の記録に着目し、ビデオテープと写真のデジタル化・レコード化・リスト化を行うことによって、1970年以降どのように「インターメディア」問題が模索されていたのかについて明らかにすることを目指した。そのため、中嶋とVICのビデオテープのデジタル化、レコード化、サムネイル化、およびリスト整備、中嶋のビデオテープ以外の資料（主に写真資料）のリスト整備を行った。また、最新版の《MY LIFE》（中嶋興とその他数人による）を作成するためのイベント「マイ・ライフ勉強会2」等を行った。

体制／手法

主たる調査・研究個人協力者：足立アン（Collaborative Cataloging Japan）、Nina Horisaki-Christens（メディア芸術研究者 | Columbia University）瀧健太郎（ビデオアーティスト）、中川陽介（メディアアーティスト）、好光義也（パフォーマンスアーティスト）、飯田豊（メディア論 | 立命館大学准教授）、山腰亮介（アーキビスト）、森下隆（キュレーター）



アドバイザー
手塚一郎 中嶋興
(VIC)

作業内容
デジタル化、レコード化、サムネイル化、およびリスト化

主たる調査・研究・デジタル化・編集・保存協力機関：Collaborative Cataloging Japan、東京都現代美術館、埼玉県立近代美術館、株式会社カロワークス、株式会社東京光音

成果

■ データ

- デジタル化されたビデオテープ：中嶋興 = 355本 / VIC = 80本
- ビデオテープのサムネイル作成：中嶋興1356件 / VIC = 243件

■ リスト

- 中嶋興ビデオテープリスト
- 中嶋興写真リスト
- VICビデオテープリスト

■ イベント 主催

- マイ・ライフ勉強会2（2024年1月31日 | http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/20240131_mylifestudy-2/）

協力

- ポートフォリオBUTOH「『塩首』〈全編〉上映会」（2023年12月2日 | <http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/2023-12-02/>）
- 前衛演劇の探求Vol.1「大野一雄舞踏公演『ラ・アルヘンチーナ頌』研究上映会」（2024年3月8日 | <http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/2024-03-08/>）

マイ・ライフ勉強会2



■ コラボレーション

CCJの特別プログラムである中嶋興特集に映像と知見を提供。（2023年12月-2024年1月 | <https://www.collabjapan.org/events/2023/december-members>）

CCJの特別プログラムであるVIC特集にキュレーションおよび映像提供。（2024年3-5月に開催 | <https://www.collabjapan.org/events/2024/march-members>）

公開方法

- KUACのHPにてリストおよび報告書を公開
- デジタル化したデータをKUACアーカイブにて閲覧
- イベントの一部は報告書およびHPにて公開

文化・社会・経済的意義

- ビデオに記録されている多様な芸術活動・及び社会的諸事象の記録の開示による学際的・国際的研究の促進。
- ビデオのアーカイブ・モデルの理論的・実践的考察。
- ビデオ・アーカイブの活用および現在におけるクリエイションとの接続

残された課題

- 残りのビデオテープのデジタル化
- 一般的なデジタル化の方法の確立
- ビデオとアーカイブに関する有識者への取材